



ツール・ド・のど2日目

第22回ツール・ド・のど1000能登半島一周サイクル1000(同表)は、石川県体協、県自転車競技連盟、北國新聞社主催。は2日目の19日、輪島市から七尾市へ能登半島を一周する1000kmのコースが行われた。全行程を回すチャレ1000コースは54人、輪島、七尾間の2日コースには3人が参加。出走者の中には若者及び高齢者の姿も多く見られ、自己の限界に挑戦しながらペダルをまわし、風光明媚な能登半島を快走した。



外浦の絶景を楽しみながら力走する出場者
— 珠洲市鳥居海岸

銀輪で限界に挑戦

シルバー選手快走



快走する小西さん
— 穴水町内

今大会の出走者で驚く、脚力に自信があった。船の西孝(さん)79歳と、ツールの仲間より休憩時間を短く七尾御殿町は七尾と出場は16日連続で、今して黙々と走り続けた。(67)小笠原市東町「援して」と、孫のチームを遊覧の年は前日に朝「一日」仲間ともに「最髙齢79歳小西さん」に飛込んだ。1スに参加した。若し時にタイヤの交換、仲間20人と通1回の練習のため、七尾と能登各地を習得して臨んだ今大会で、元気な姿は出場者の中で目撃された。小西さんは「一生懸命」と意気込み、早くも送っていた小西さんは「志だけ、筋肉痛を抑え、来年の完走を誓った。」



親子3世代で出場した柏山さん(右)
— 七尾市能登マリンパーク海族園

チャレ1000コースにの山田いづる君(8)も初出場した柏山さん、沢市馬場町「志道で心は孫3人と長女の夫の5人と一緒に走りたい」と出陣を決意、いづる君といづる君の父貴弘さん目を終えた。柏山さんは昨年、一日同市高松、柏山海軍コースに初参加した孫君「小笠原市東町」と今大会に臨んだ。柏山さんは、大会初日から孫3人に1スを含むながら先導し、貴弘さんをお義父さんが一番元気と驚かせた。ゴール後、足場が段々悪化した柏山さんは「孫が頑張っている姿を見ていられるのが出ま〜」と話した。

大会は「元気の源」「孫から力」参戦

大会は「元気の源」

長崎県立能登市教育委員の海線(海線)や山間尾市能登島から水見

孫から力」参戦

初出場した柏山さん、沢市馬場町「志道で心は孫3人と長女の夫の5人と一緒に走りたい」と出陣を決意、いづる君といづる君の父貴弘さん目を終えた。柏山さんは昨年、一日同市高松、柏山海軍コースに初参加した孫君「小笠原市東町」と今大会に臨んだ。



食として選手に提供されたファミリーマートの弁当
— 能登町の内浦製合運動公園

部の味道を運んだ。道市、定謙志水が、かほ「ファミリーマートは、特別のツール・ド・のど、津幡町を経て内浦の県立自転車競技場で開催し、さわやかな場までの18・30、能登の能登の情を受けられる。大会は財団法人JKAの特別協賛で、ゴールの七尾市能登島マリンパークをゴールとする。

井上100食を提供。ファミリーマートのスタッフが、大会を支えた。大会会場は、18日に続いて19日も出場者で疲れた汗を拭きながら、準備した同島の「ひよこ」も人気を集めた。自衛隊員も支援

駐屯地の第14普通科連隊の4人がサイア者の自転車を回収、運搬で大会後方支援した。大野市人「曹長がトラックで最後尾まで走り、自転車をゴール地点へ運んだ。

涼飲料水、お弁当などを提供。出場者たちの英気を養った。島の人情で迎え

ゴール地点では、七尾市能登島の女性ボランティアグループ「すまれの川田」を会長とするメンバーをはじめ、能登島観光協会の職員が大鍋で作った1000食分のめった汗を拭きながら、準備した同島の「ひよこ」も人気を集めた。自衛隊員も支援